

燕市
校務DX計画

令和7年3月1日

1. 校務DX計画

	現状分析・課題	解決策・想定スケジュール				
		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
学校における業務のデジタル化	保護者との欠席・遅刻・早退連絡を完全デジタル化している学校、児童生徒への連絡をクラウドサービスを用いた配信で半分以上デジタル化している学校は、それぞれ3割程度である。	デジタル化の事例収集、活用方法検討	活用方法の情報発信			
学校設置者における業務のデジタル化	教育情報セキュリティポリシー策定から3年が経過しようとしており、策定当時よりもICTの活用機会が増加したため、実態に合わせた改定が必要である。	ポリシーの策定準備	ポリシーの策定・運用			
次世代の校務デジタル化に向けた環境整備	ネットワーク統合と汎用のクラウドツールの活用を前提とした、パブリッククラウド上で運用できる次世代型校務支援システムの具体的な導入を予定している。	新しい統合型校務支援システム導入に向けた準備	新しい統合型校務支援システムの導入・運用			
生成AIの校務での活用	一部の教職員（半分未満）が生成AIを校務で活用している学校の割合は、4割程度である。	生成AIについての事例収集、活用方法検討	活用方法の情報発信			
クラウド環境を活用した校務DXの推進	教職員が校務用の端末を学校外において使用できるクラウド環境を整えていない。	次期ネットワークの在り方検討・設計 教員用端末の検討	次期ネットワークの最適化・運用 次期ネットワークの構成に合わせた教員用端末の配置・運用			
Fax・押印の原則廃止、ペーパーレス化、不必要な手入力作業の一掃	Faxを使用していない学校が約3割、業務で押印の必要な書類がない学校が約1割、職員会議等の資料をクラウド上で共有しペーパーレス化を完全に実施している学校が2割である。	事例収集と解決策の検討	活用方法の情報発信			

2. 期待される効果

- ①教職員の働き方改革につながり、業務の質の向上、教職員の負担軽減が期待できる。
②児童生徒や保護者の満足度の向上も期待できる。